

特定非営利活動法人  
**子ども療養支援協会通信**

Japanese Association for Child Care Support Vol. 26

Child Care Staff  
 ーすべての小児病棟に子ども療養支援士を！ー



寄稿

「子どもの権利条約」から考える子ども療養支援（第6回）

～「意見を聴かれる子どもの権利」  
 について～

平原 興（理事、弁護士）

子どもの権利条約の一般原則とされる4つの条項の最後の1つは、第12条の子どもの「意見表明権」です。同条1項は「締約国は、自己の意見をまとめる力のある子どもに対して、その子どもに影響を与えるすべての事柄について自由に自己の意見を表明する権利を保障する。その際、子どもの意見が、その年齢および成熟に従い、正当に重視される。」と規定しています。子どもの権利条約の特徴と言える条項で、同条に関する2009年の一般的意見第12号でも、「人権条約では他に例を見ない規定」と紹介されています（para.1）。子どもに保護や条件整備から派生する権利があるだけでなく、子どもが「自己の人生に影響を及ぼす権利があることを明らかにしたもの」（同 para.18）であり、子どもを権利の主体と考える子どもの権利条約の性質を端的に示す条項と言えるでしょう。

意見を聴かれる子どもの権利は、子ども個人がその子に影響する決定に関して認められるだけでなく、集団としての子どもたちに影響を及ぼすような決定について、意見を聴かれる子ども「たち」の権利としても保障されるものです（para.9）。例えば、子ども自身に関する治療に関する決定であれば、「その子個人」の意見を、病院内のルールなどであれば、「その病院の子どもたち」の意見を、広く小児医療に関わるようなものであれば、「一般の子どもたち」の

目次

（2021年5月、令和3年 第26号）

寄稿 「子どもの権利条約」から考える  
 子ども療養支援（第6回）

◇ 「意見を聴かれる子どもの  
 権利」について  
 平原 興 ---1

◆ 「第8回日本子ども療養支援研究会  
 参加申し込み」 ---3

初めまして！

◇ 夢は覚悟にかわりました  
 山川咲也加 ---4

◇ 温かい居場所を作れるように  
 白石真菜

◇ 職場や家族の理解と協力を得  
 て学ぶ 鷓木 優 ---5

◇ その子らしく過ごせるように  
 溝渕 文乃 ---6

CCS ニューフェイスレポート

◇ 一年を振り返って今考えること  
 加藤香恵 ---7

こどもの広場

◇ 聞き逃しがちな子どもの言葉  
 須藤美奈 --8

保護者の広場

◇ 「本当は知りたい気持ちを我慢して  
 たんでしょね」  
 北條由華 --9

CCS の窓

◇ この仕事にゴールはありません  
 才木みどり --10

事務局からのお知らせ --11



ナニワイバラ（難皮薔薇）

意見を、それぞれ聴くことが求められることとなります。また、単に意見表明ができれば良いのではなく、その表明された意見は、「正當に重視」しなければならず、決定において考慮することも求められています。つまり、子どもに関する様々な決定プロセスへの子どもの「参加」自体を認めているものと言えます（para.13）。子どもに関わる個々の現場から、子どもに関する国レベルの政策に至るまで、子どもたちに関わるあらゆる場面で重要な役割を持つ条項と言えるのです。

しかし、その権利の保障は簡単ではありません。この意見表明権の実践について、一般的意見 12 号では「長年にわたる多くの慣行および態度ならびに政治的および経済的障壁によって阻害され続けていることに留意する。」「現に行われている実践の多くのものの質についても、依然として懸念する。」（同 para.4）と指摘されています。

この一年間、新型コロナウイルス感染症の拡大のために大きな生活の制限がなされ、子どもたちも直接、間接に大きな影響を受けてきました。学校に関わることのみを見ても、昨年 3 月からの

一斉休校とその後のカリキュラム変更、行事・部活動の中止など、挙げればきりがありません。しかし、こうした施策を立案する際に、子どもたちの声を聴くことは意識されていたでしょうか。子どもの支援に関わる NPO や医療機関など多くの団体で、子どもの声を直接聴くためのアンケートなどの調査がなされています。そこで挙げられる子どもたちの声が、施策の検討段階でも意識されていれば、今も続く子どもたちへの深刻な影響をいくらかでも回避、緩和できる方策があり得たのではないかと感じます。

意見表明権について論じる一般的意見第 12 号では、この権利の実施に関して、かなり具体的な条件や実施の方法について述べています。現場の実践にも大きな示唆を与えてくれるものと思いますので、次回、またご紹介したいと思えます。

※文中の子どもの権利条約の一般的意見の訳文は、いずれも日本弁護士連合会ホームページ掲載の平野裕二氏の日本語訳によっています。



春の野にすみれ摘みにと来し吾ぞ

野をなつかしみ一夜寝にける 山部赤人

〈巻八・一四二四〉万葉集

**「第 8 回日本子ども療養支援研究会参加申し込み」****2021 年 6 月 13 日（日） 9：30～17：00 オンライン**

参加費：一般 3000 円・学生 2000 円

- ① お名前（ふりがな）
- ② ご所属・ご職種、もしくは、お立場（学生、患者の家族、その他、差し支えない範囲でご記載下さい。）
- ③ 電話番号
- ④ 連絡用メールアドレス
- ⑤ 子ども療養支援士養成コースオンライン説明会 参加希望（有・無）
- ⑥ （⑤で有を選ばれた方のみ）・・・養成コースの説明会で聞きたい質問があればお気軽にご記入ください。

申し込み先：2020ccskodomo@gmail.com

※メールアドレス部分「2020」となっておりますのでお間違えのないようご確認ください。

（入金）締め切り：2021 年 6 月 4 日（金）

お申込み後、入金先をご連絡するメールをお送りします。

参加費は銀行振込となります。お申込み後に入金となりますのでお早めにお申し込みください。

入金が確認できましたら支払い確認のメールにて、Zoom 参加 URL・抄録集データをお送りします。

6 月 9 日（水）までに連絡がない場合は上記メールアドレスへお問い合わせください。



ストロベリーキャンドル



2021年度は4名のCCS受講生を迎えています。その2021期生による自己紹介です



## 夢は覚悟にかわりました

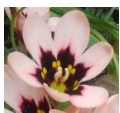
やまかわ さやか  
山川 咲也加



指が震えるくらいドキドキしながら選考結果を開封し、「合格」の文字を目にした時の喜びと感動は今でも忘れることが出来ません。そして、合格をいただいたその日から、子ども療養支援士になりたいという私の夢は、「子どもの入院生活や治療を支える子ども療養支援士になるんだ」という覚悟に変わりました。

私は子どもに関わることや子どもの話を聞くことが好きで、将来は入院している子どもの心理的なサポートがしたいと考えています。そんな時に知ったのが「子ども療養支援士」という専門職でした。遊びやプレパレーションを通して子どもの不安を軽減し、治療に前向きになれるように支援するという、子ども療養支援士の専門性に魅力を感じ、私もそういった援助ができるようになりたいと思志すようになりました。

昨年度、世界中で猛威を振った新型コロナウイルスは、医療現場で働く医療従事者や入院している子どもたち、そして家族に大きな影響を与えたと聞いております。そして、自由な面会や触れ合いが制限される今だからこそ、ますます子ども療養支援士の必要性が高まっているのではないかと感じています。このような大変な状況の中でも、子ども療養支援士養成コースを開講していただけることに感謝して、講義や実習では多くのことを吸収し、高い専門性を身につけることができるよう努力していきます。子どもの気持ちに寄り添うことのできる子ども療養支援士になれるよう一生懸命頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



## 温かい居場所を作れるように

しらいし まな  
白石 真菜



私が子ども療養支援士を目指す原点となったのは、小学生の時に家族が長期入院をした経験にあります。

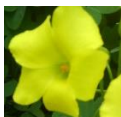
毎日病院に通う日々の中で、良い時も悪い時も、家族や私達のそばにいて下さるスタッフの方々の存在

の偉大さを肌で感じ、強く憧れを抱きました。また、子どもであった私にも一個人として優しく接して下さり、そこに温かい居場所があったことから、私は病院という場所が好きになりました。この経験を通して、私自身も医療スタッフの一員となり、温かい場所を作りたい、患者さんやご家族と共に歩む存在になりたいと強く思いました。

そして高校生の時に「子ども療養支援士」を知り、まさに私がやりたかった職業だととても胸が熱くなったことを今でも覚えています。それから子ども療養支援士を目指し、大学では心理学を専攻し、また課外活動

やアルバイトでは多くの子ども達との素敵な出会いに恵まれました。子ども達の日々成長していく姿や一人ひとりが有している大きな力をそばで感じ、また子ども達の笑顔から元気をもらい支えられ、かけがえのない時間を過ごすことができたことに感謝しています。

いま、長年の夢であった子ども療養支援士のスタートラインに立ち、専門的・実践的な学びの機会をいただけたことに感謝しています。病院に関わる全ての子ども達にとって、温かい居場所を作れるような子ども療養支援士になれるよう、日々精進して参る所存です。ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



## 職場や家族の理解と協力を得て学ぶ

うのきゆう  
鵜木 優



新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい状況が続くなか、「令和3年度子ども療養支援士養成コース」を開講して頂き心から感謝申し上げます。

私は小学生の頃、映画「パッチアダムス」を観て入院している子どもの笑顔を引き出せる人になりたいと思いました。また、学生時代に観た映画「100歳の少年と12通の手紙」の登場人物ローズのような存在になりたいと「子ども療養支援士」を志すようになり、何度かの挑戦を経てようやくスタートラインに立つことができました。

大学時代のこども病院でのあそびボランティアや療育施設でのアルバイト、卒業後の小・中学校(特別支援学級・通常学級)での介助員、医療ケアを必要とする重症心身障害児(者)の入所施設での勤務経験から、専門知識と技術を身に付けることの重要性を

痛感してきました。

結婚し子どもが生まれてからは、小児科のスタッフや、保健師、保育士等の声掛けひとつで一喜一憂する母親の心理も理解できるようになりました。

このタイミングで合格通知をいただき、身の引き締まる思いと同時に、職場や家族の理解と協力を得て学ぶことができることに感謝と喜びの気持ちでいっぱいです。

受け身になりがちな療養生活の中で、子ども達が抱える不安や不満、要望などを自発的に訴えることができるよう、それぞれの根本的な背景を理解し尊重して寄り添うことを常に心がけ、発達段階や理解度に応じて支援する努力を重ねていく決意です。

ご指導ご鞭撻のほどよろしく願い致します。



## その子らしく過ごせるように

みぞぶち あやの  
溝渕 文乃



はじめまして、溝渕文乃と申します。私は、大学時代に新聞記事を目にしたことがきっかけで子ども療養支援士の存在を知りました。医療においても子どもの立場に立ちきり、その子らしく病気や治療に立ち向かえるように支援する方々がいることに強い感銘を受けました。

自身を振り返ると、幼い時から「病気と共に生きるは何だろう」といった思いを漠然と抱いてきましたが、「療養中であってもその子らしくいられる支援をしたい」と考えるのは、学生時代に突然の入院を経て病気が発覚し、現在も毎日主体的に治療を続けながら、いきいきと過ごしている兄の影響もあるように感じます。

大学では全く異なる分野を専攻していたので、志を決めてからの数年は、大きく舵を切って子ども療養支援士を目指す日々でした。実際に子どもたちを取り巻

く環境を見たいと思い看護補助者として子ども病院で過ごしてみると、子どもが個人として尊重される医療には、医療従事者だけでなく子どもの立場に立つ職種の関りも重要であると改めて感じました。

講義がはじまり、自分の未熟さを痛感するとともに、この職種の意義や使命を心に刻む日々を送っています。不安や緊張はありますが、子どもにとっての最善を考え動ける子ども療養支援士を目指し、講義や実習での学びを大切に専門職としての知識や技術を身につけていきたいです。最後になりますが、多くの方々のご支援のもと、学びの機会を与えていただき心から感謝いたします。この環境への感謝と初心を忘れず精進してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



彼岸桜



## 一年を振り返って今考えること



加藤香恵（国立がんセンター中央病院・小児腫瘍科, CCS）

現在私が勤務している病院は、がん専門病院として多岐多様にわたる小児がん診療を行っています。標準的な治療で治すことが難しい腫瘍に対しても未承認薬や適応外薬を用いた治験や造血幹細胞移植を含む治療等を提供していることも当科の特徴です。病床数は28、平均入院期間は12日程度、入院患者の年齢層は0～20代前半です。病棟内には広いプレイルームが設置され、様々な年齢の子どもたちやご家族が集います。コロナ禍であっても感染症対応を行う患者さん以外は自由に利用でき、昨年末には子どもと家族の気分転換を図るため、プレイルームの窓から続くお庭の週に一度の開放を始めました。

昨年3月に勤務開始以降、多くの子どもたちやご家族との出会いがあり、ひとつひとつの関わりを通して子ども療養支援士として育てていただいたと感じます。自分の未熟さを痛感し反省することも多々ありますが、それがさらなる知識やスキル、経験を求める原動力となりました。また、医師、看護師、臨床心理士、リハビリスタッフ、検査技師等、自身の職種に誇りと信念を持って診療にあたる素敵な方々と連携し多くの学びと刺激をいただいていること、密度の濃い臨床経験を積める恵まれた環境にあることの有り難さを日々噛みしめています。

### 「多職種チームの一員として」

この一年は、勤務する病棟や検査・治療で出向く他部署に、この職種や子ども療養支援の理念、介入方法やその意図を伝えるとともに、心理社会的支援の重要性における認識を高めることを通し、子ども療養支援の活動や連携の基盤作りに注力した期間でした。その中で当初は無意識に私ひとりで子どもや家族の味方になろうとしていましたが、その考え方では良い協働関係は生まれにくいことにも気づかされました。そ

れぞれの職種が、それぞれの立場や視点、方法で子どもと家族を捉え、ニーズを見出しサポートしようとしていることを目の当たりにし、多角的な視点が確保される多職種連携の大切さや、それに伴う支援の幅の広がりによって子どもや家族が受ける利益の大きさを今改めて感じています。

### 職種の存在意義、「子どもの力を信じる」とは

さらに、研修期間を終え、責任ある立場で臨床の現場に身を置いたこの一年、様々なことを感じ考える中で、「子どもの力を信じる」ということの意味について強く考えさせられました。子どもが主体的に頑張れる力を信じたい思いは皆がベースに持っているながらも、実際の医療現場で家族を含め周囲の大人がそれぞれにいろいろな思いや事情を抱える状況において、子どもの力を信じきることは意外と難しく勇気のいることです。この職種の強みは、その子らしく遊ぶ姿やその家族らしく過ごす時間など日常の些細な瞬間にこそ見出される彼らの強みや特性に注目できること、そしてその彼らの力が最も効果的に引き出される環境をいかに整えるかという視点を持つことだと思います。闇雲に信じたり子どもに頑張りを任せてしまったりするのではなく、専門的知識や臨床経験に裏打ちされた心理社会的支援を担う専門性が支えとなり、“確かな根拠を持って子どもの力を信じる”ことができるはずですが、その根拠を医療チームに共有し、子どもの主体性を失わず医療経験を自信や成長に繋げる関わりが可能となる点は、この職種の存在意義のひとつだと信じています。

病気と向き合い、治療や入院を頑張る子どもたち。良い時も悪い時も「それでいいんだよ」とその子のありのままを受けとめながら隣を歩く存在であるために、今後も真摯に努力を重ねたいと思います。



## 聞き逃しがちな子どもの言葉



須藤美奈（横須賀市立うまち病院・小児医療センター、CCS）

### 「親と会えたらいいのに。せめてさ、顔を見ながら電話とかできたらいいのに」

コロナウイルス流行の影響で、当院は昨年8月ごろから全館面会禁止となりました。

その後は小児病棟の入り口にあるガラス扉の前で顔を見あうことはできていましたが、日に日に制限は厳しくなり、今ではご家族は一切病院内に入ることができません…。

そんな中入院をして、1週間お家の方と会えていないお子さんからの言葉でした。

現在当院ではオンライン面会を導入し、少しでもお家の方の顔を見て話ができるよう工夫しています。

### 「テレビが見放題だったらいいのに。あとWi-Fiが使えたらいいのに。」

当院ではテレビカード（1枚1000円で13時間テレビを見ることができます）を購入しなければ、テレビを見ることは出来ません。そして院内の無線LAN（Wi-Fi）は業務用のため、患者の使用は禁止されています。日常の中でテレビやゲーム、携帯電話を多

く使用している子ども達にとって、テレビを見る時間が決まっていること、Wi-Fiが使えないことはとても苦痛のようです。でもそんなときこそCCSは、その子が1日をどのように過ごせたらよいか、他職種と一緒に考え、その子にとって必要な遊びが提供できるよう支援しています。

### 「ごはんは好きなものを食べられたらいいのに。ご飯のおかわりができたらいいのに。ごはんがもっとおいしかったらいいのに。」

この言葉は食事制限などがあるお子さんから出た言葉ではありません。病院で出るベストな食事を食べていても、こんなふうに感じるお子さんは多いようです。私たちCCSにはご飯の量やおいしさを変えることはできません。しかし、病院の食事をどのように栄養士さんが考え、調理師さんが作っているかを伝え、食事への理解を深めることはできます。そして病院の食事を理解した後、退院したら食べたいものを一緒に考えることで退院への意欲にもつながると思います。

一見どの言葉も、「どうにもならないね。仕方がないね。」と聞き過ぎてしまいそうです。

そして昨年度の1年間は、コロナウイルスの影響で「コロナだから」と私自身が諦めてしまいそうになることが何度もありました。しかし少しの工夫をすれば、子どもたちの声が反映されるかもしれません。まだまだコロナウイルスの収束の目途は立ちませんが、これからも子どもの声を聞き逃さず、子どもの声が反映されるよう努めていきたいと思っています。

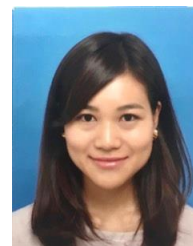


ドウダンツツジ 満天星





## 「前回の入院では あんなに嫌がっていたのに」



北條由華 (北九州市立八幡病院、CCS)

私は、関わった子ども達を振り返るとき、その子にとって本当に良い関わりができていたのか、もっとできることがあったのではないかと何度も自分自身に問いかけています。正解のない問いに悶々と向き合うなか、保護者の方からいただく温かい励ましや喜びの声は自身の活動の励みとなることはもちろん、子どもとの関わり方の道標となっています。以下は、実際に保護者からいただいたお手紙や直接かけていただいた声を一部抜粋したものです。

✦ 2回目の入院が決まった時はとても落ちこみました。でも、本人は「早く入院して早く病気を治すんだ」と言って自分から進んで入院の用意を始めていました。前の入院の時はあんなに嫌がっていたのにすごいですよね。前回の入院で病気に対する向き合い方を変えてくれたからだと思います。(6歳男児の母)

✦ この子は敏感なところがあるので(MRI検査を)多分できないと思っていました。Hさんが丁寧に説明してくれたので、この子も覚悟を持って検査に行けたんだと思います。動かずにじっとしている姿を見てびっくりしました。(7歳男児の母)

✦ きょうだいの事まで気にかけてくださって本当にありがとうございました。兄弟のために作ってくださった冊子は感動ものでした。あれ以来、お姉ちゃん達

も落ち着いて過ごせています。(10歳と5歳のきょうだいの父)

✦ 本人は病気のことを何も聞いてこなかったのにしてないと思っていました。でも病気のことをこの子がわかるように噛み砕いて説明していただいからは、急にスッキリした表情になっていました。本当は知りたい気持ちを我慢していたんでしょうね。(6歳女児の母親)

✦ もともと口数が少なく嫌なことも嫌と言えない子なので、入院当初は色々我慢していたと思います。Hさんが来てくださってからは、笑顔もお喋りも増えて検査にも怖がらずに行けるようになりました。親としてもこの子が入院生活を明るく送る姿を見て本当に安心しました。(7歳男児の母親)

これらの声を通して感じたことは、子どもは私たち大人が想像する以上に困難な状況に適応し、乗り越えていく力があるということです。その姿は、子どもの最も側にいるご家族でさえ目を見張るものがあるようです。病院という特殊な環境下において、子どもがその子なりの成長を遂げながら、自身の持つ力を発揮することができるよう、今後も子ども療養支援士としての専門性をさらに磨いていきたいと思ひます。



## この仕事にゴールはありません



才木みどり（宮城県立子ども病院・成育支援局、CCS）

宮城県立子ども病院に入職し今年で9年。当院はCLSが開院当初より勤務しており、CLSの活動は一部には認知されていたものの、活動を開始した病棟はCLSが常勤していた病棟ではなかったこと、また、子ども療養支援士という聞きなれない職種名であった為、手探りの中で活動を開始しました。病棟の状況を見ながら、子どもたちや家族のために今の自分に何ができるのか、ニーズはどこにあるのか、どこまでできるのか、考えて悩んで試して相談して…とにかく必死でした。何とか活動が形になってきたのは2年を超えた頃だったと記憶しています。

### 「どうやって遊んであげればいいのか分からない・・・」

私が子ども療養支援士を目指したきっかけは、保育所に勤めていた当時担任していたお子さんです。交通事故にあって生死の境を彷徨い、ICUでの対面、一般病棟に移ってからもお見舞いに通いました。それまで、病院という場所が子どもにとってどういう場所であるかなど考えた事ありませんでした。当時は成人と小児の混合病棟で、今では当たり前の病棟保育士などもおらず、重い障がいが残った彼に『少しでもよくなるように刺激を与えてあげたいけれど、どうやって遊んであげればいいのか分からない』『病院にも保育士さんみたいな人がいてくれたらいいのに』とお母さんがつぶやかれたことが強く心に残りました。病院の中で病気や障がいと向き合っている子どもたちや様々な葛藤を抱える家族を支える仕事をしたい、そう思いながらも当時はその術がなく7、8年経った頃、日本で子ども療養支援士という新しい職種を育てる協会の存在を知り、思い切って子ども療養支援士養成コースに応募し、研修を受ける事ができました。子ども療養支援士として9年。本当にあっという間でした。

### 「いつもちゃんと話聞いてくれたから治療頑張れたんだよ」

入院中、ずっと病気になった事や治療がうまくいかない事に対して怒っていたけれど、退院して数年後に「ずっとなんでだよって腹立ってた。でも、『そんなこと言わないで頑張れ』って言わなかったでしょ？いつもちゃんと話聞いてくれたから治療頑張れたんだよ」と大人びた口調で教えてくれた子、進級したからと退院後制服姿見せに来てくれる子、お子さんが亡くなられた後、「残念なことになってしまったけれど、出会えてよかったです」とご挨拶に来てくださったご家族、様々な出会いの中で子ども療養支援士になってよかった！と心から思います。9年経っても出会う子どもたちや家族の数だけ悩みも迷いもやりきれなさを抱える事もあります。それでも、私はこの仕事が大好きです。

ここ1年は“with コロナ”と言われ、社会情勢が目まぐるしく変わりました。まさにその渦中の子どもたち。行事や慰問は全面見直され、治療の中で外泊を目指して頑張ってきた中で禁止の決定。様々な情報に翻弄される中で、何とか子どもたちの為にできることはないか…と試行錯誤の連続でした。コロナが恨めしい気持ちもありますが、その中でも病院全体でやってきた行事を病棟毎の小規模で院内のICTに確認を取りながらできる形を模索したり、オンラインでの慰問を初の試みとして取り入れたり、この状況下だからこそ取り組めたものもありました。

この仕事にゴールはありません。決まった正解もありません。様々な職種の方と協力しながらおかれた状況の中で子どもたちの為にできる事を全力で考える。目の前にいる子どもと家族のために全力で悩み続ける、そんな子ども療養支援士であり続けたいと思っています。

## 事務局からのお知らせ

### ● 令和3年度会費の納入のお願い

会員にご入会頂いた皆様、ありがとうございます。会員の皆様にはニュースレター他、協会からのお知らせを適宜メール配信させていただきます。

2020年度 会員の方は下記いずれかの口座まで会費をご入金の際、よろしくお願ひします。

※銀行振込:みずほ銀行 宇都宮支店「普通」4760986

特定非営利活動法人子ども療養支援協会 (トクヒ)コドモリョウヨウシエンキョウカイ)

※郵便振替:口座記号番号 00160-1-324730 加入者名 特定非営利活動法人子ども療養支援協会

### ● 令和2年度子ども療養支援士養成課程 認定のご報告

令和3年2月、認定会議にて令和2年度養成コース受講生2名が子ども療養支援士として認定されました。

今年度はコロナ禍という誰もが初めての経験の中、多くの関係者の方々のご協力と、受講生の努力により、無事認定へたどり着くことができました。4月～5月はすべての講義を初めてのオンライン授業とし、6月以降は多くの病院が実習を一時中止した中、実習を受け入れてもらえる病院との交渉を重ねました。指導者と受講生も感染対策の緊張感の中、限られた時間の中でできる最大限の実習を行いました。最悪実習が中止されるという状況も常に考慮し試行錯誤しながらの決して平坦な道のりではありませんでしたが、このような中でも「絶対に子ども療養支援士になりたい」というお二人の強い熱意に後押しされ、最後まで完遂することができました。この場をお借りしまして、ご協力頂いたすべての先生方・関係者の皆様に御礼申し上げます。

残念ながら新型コロナウイルス感染症の猛威のため、3月に予定されておりました修了式・研修報告会は対面ではなくZOOMのオンライン形式で開催されました。また同時に昨年度認定されたすでに子ども療養支援士としての道を歩まれている4名の方々も、昨年修了式が行えませんでしたので、併せて昨年の修了プロジェクトの発表を行って頂きました。(1名欠席で発表自体は3名に行って頂きました。) ZOOMではありましたが久しぶりに遠方の子ども療養支援士の先輩方も多数参加して頂き、改めて少しずつ仲間が増えてきた心強さも感じる事ができました。

これからもまだ新型コロナウイルスと共に生きていく時代は続いていきます。従来通り活動を行うことはほぼすべての病院で難しく、制限された中での工夫が求められます。その結果より子どもたちの療養環境は厳しい状況に置かれており、子ども達の代弁者としての子ども療養支援士の役割は今後も減ることはなく、むしろ必要性は高まっていくことを実感しております。これからも仲間とともに怯むことなくこの難局を乗り切ってほしいと願っております。新たな仲間となりました2名をどうぞよろしくお願ひ致します。

### ● 今後の予定

子ども療養支援協会の行事

| 開催日         | 内容               | 場所      |
|-------------|------------------|---------|
| 令和3年4月5日(月) | 令和3年度養成コース前期講義開講 | オンライン授業 |

|              |                          |             |
|--------------|--------------------------|-------------|
| 令和3年5月       | 令和3年度養成コース前期実習開始<br>(予定) | 大阪、静岡 他(予定) |
| 令和3年6月13日(日) | 第8回日本子ども療養支援研究会          | オンライン開催     |
| 令和3年7月       | マンスリーセッション               | オンライン開催     |

### 編集後記

ニュースレターで取り上げたい話題やご提案・ご希望を募集しています。みなさまからの投稿を歓迎しています。下記事務局までお寄せください。

子ども療養支援協会事務局

本協会と子ども療養支援士に関してのご質問はEメールによりお問い合わせ下さい。

(回答にお時間をいただく場合がありますが、予めご了承下さい)

e-mail : [kodomoryoyoshien@yahoo.co.jp](mailto:kodomoryoyoshien@yahoo.co.jp)

NEWS LETTER アーカイブ

子ども療養支援協会ホームページ

<http://kodomoryoyoshien.jp/> に掲載



アジサイ アナベル